#### The 27th Information-Based Induction Sciences Workshop

# 時系列テンソルデータストリームに対する関心の拡散パターンの抽出手法

### 東口慎吾

大阪大学 産業科学研究所 shingo88@sanken.osaka-u.ac.jp

### 松原靖子

大阪大学 産業科学研究所 yasuko@sanken.osaka-u.ac.jp

# 川畑光希

大阪大学 産業科学研究所 koki@sanken.osaka-u.ac.jp

2つのサブアルゴリズムにより構成される

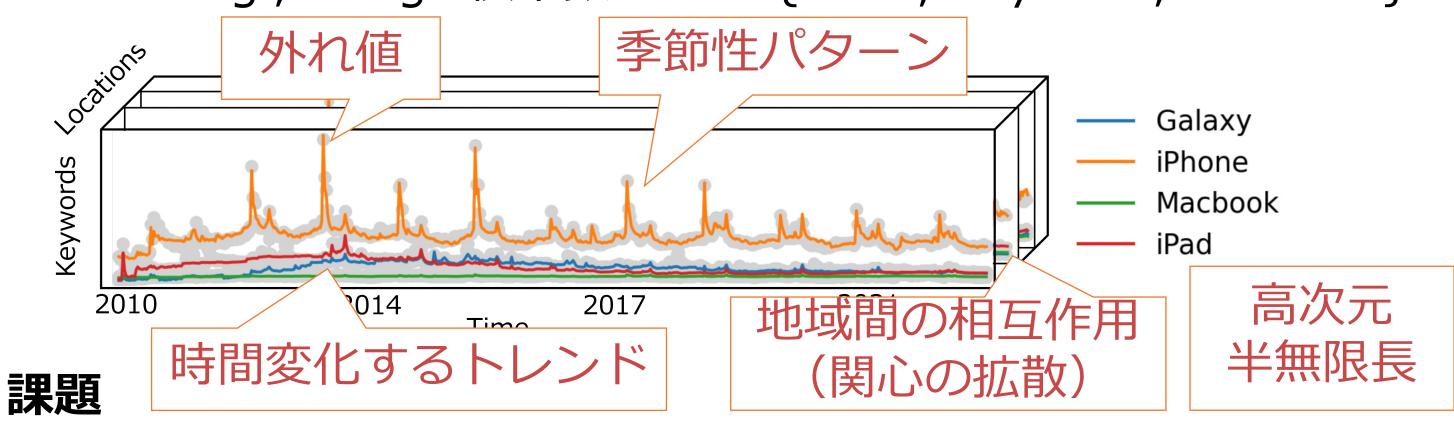
#### 櫻井保志

大阪大学 産業科学研究所 yasushi@sanken.osaka-u.ac.jp

#### 最適化アルゴリズム モチベーション

# Given: 社会活動テンソルデータストリーム

e.g., Google検索数データ {Time, Keyword, Location}



(1)複合的なパターン: トレンド・季節性・外れ値・地域間の拡散

(2)高次元かつ半無限長、(3)パターンの時間変化: 流行の変遷

Goal: 時間変化する複合的なパターンを抽出し、将来予測を行う

## 結論

データストリームの継続的なモデリングと将来予測を行う手法 D-Tracker を提案。提案手法は以下のような特徴を持つ

- 1.解釈可能: トレンドや拡散、季節性の変動を解釈可能な形で抽出
- 2. スケーラブル: 計算時間はデータストリームの長さに依存しない
- **3. 全自動:** 提案手法はハイパーパラメータを持たない

## 提案モデル

#### ①. 背景とモデル概要

Background - 反応拡散方程式 化学物質や熱量などの、 局所的な増減 (反応項) や 地点間の拡散 (拡散項)を 記述する数理モデル

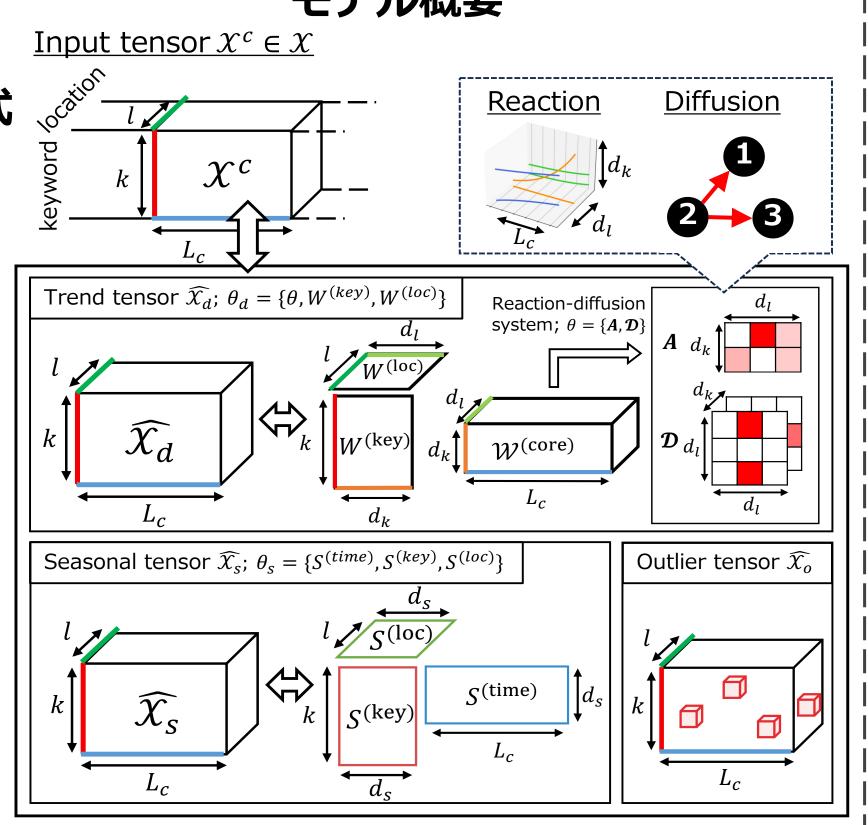
$$\frac{\partial u_i}{\partial t} = f(u_i) + \sum_j D \cdot (u_j - u_i)$$
反応項 拡散項

#### ② D-Tracker モデル

 $\mathcal{X}^c \approx \hat{\mathcal{X}}_d + \hat{\mathcal{X}}_s + \hat{\mathcal{X}}_o$ 

トレンド・拡散

## モデル概要



反応拡散システムにより生成された潜在ダイナミクスと、 キーワード/地域ファクタによってトレンドテンソルを表現

$$\hat{X}_d = W^{\text{(core)}} \times_{\text{key}} W^{\text{(key)}} \times_{\text{loc}} W^{\text{(loc)}}$$
  $\theta_d = \{\theta, W^{\text{(key)}}, W^{\text{(loc)}}\}$  潜在ダイナミクス キーワード/地域ファクタ (重み)

#### 反応拡散システム (Reaction-diffusion system, RDS)

$$\frac{dw_{ij}}{dt} = a_{ij}w_{ij} + \sum_{j'} d_{ijj'}(w_{ij'} - w_{ij}), (1 \le i \le d_k, 1 \le j \le d_l)$$
反応項 拡散項 
$$\theta = \{A, \mathcal{D}\}$$

 $a_{ij}$ :  $w_{ij}$ の増加率  $d_{iji'}$ :  $w_{ij'}$ から $w_{ij}$ への拡散の強さ 潜在ダイナミクス w (core) は反応拡散システムにより生成

#### 季節性

潜在的な季節性ダイナミクスと、

キーワード/地域ファクタによって季節性テンソルを表現

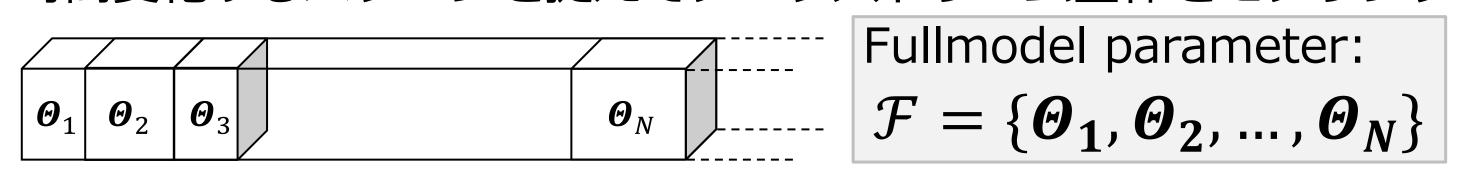
$$\hat{X}_s = S^{\text{(time)}} \times_{\text{key}} S^{\text{(key)}} \times_{\text{loc}} S^{\text{(loc)}}$$

潜在ダイナミクス キーワード/地域ファクタ (重み)

Single model parameter:  $\boldsymbol{\Theta} = \{\boldsymbol{\theta_d}, \boldsymbol{\theta_s}, \widehat{\boldsymbol{\chi_o}}\}$ 

複数のモデルを切り替えることで、

時間変化するパターンを捉えてデータストリーム全体をモデリング



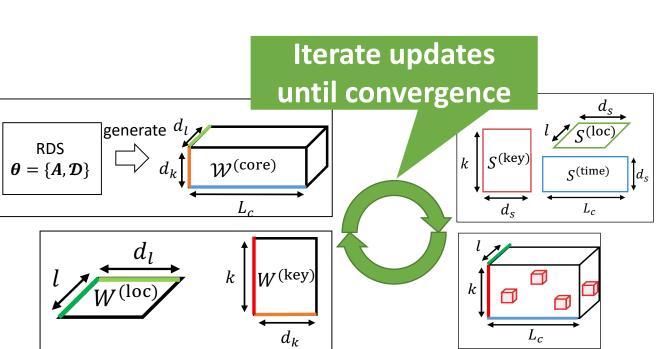
1 ModelEstimation

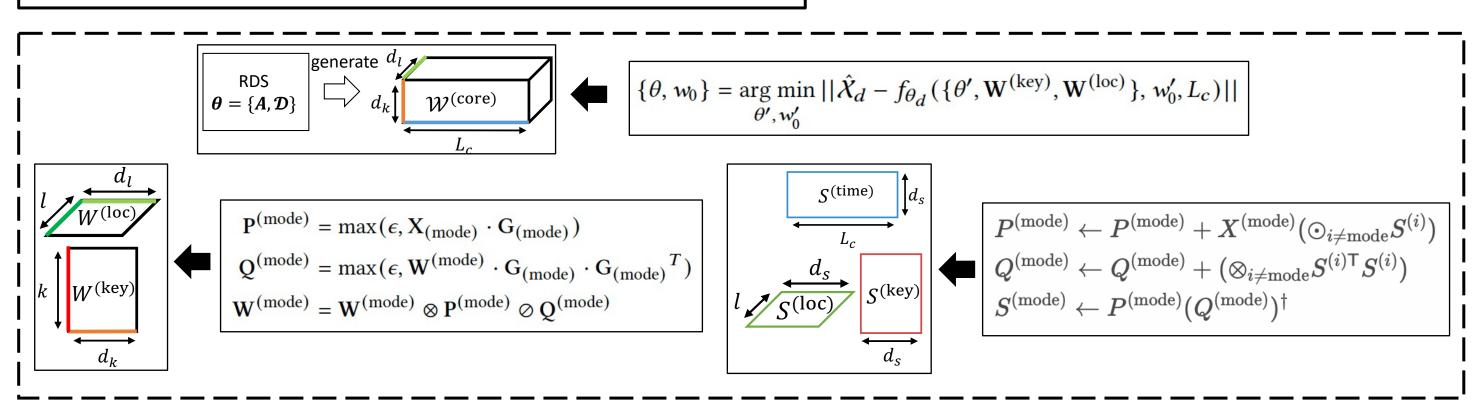
スクラッチで推定

**Given:** 入力テンソル  $X_c$ Object:  $\min_{\alpha \in \widehat{\mathcal{X}}_{c}} \| \mathcal{X} - \widehat{\mathcal{X}}_{d} - \widehat{\mathcal{X}}_{s} - \widehat{\mathcal{X}}_{o} \|$ 

(MDL理論に基づく目的関数)

| Idea: 交互最小二乗法 (ALS) により推定





ModelEstimation: 現在のウィンドウ  $(X_c)$  からモデル  $(\Theta)$  を

ModelUpdate: 1で推定したモデルをフルパラメータ ( $\mathcal{F}$ ) に

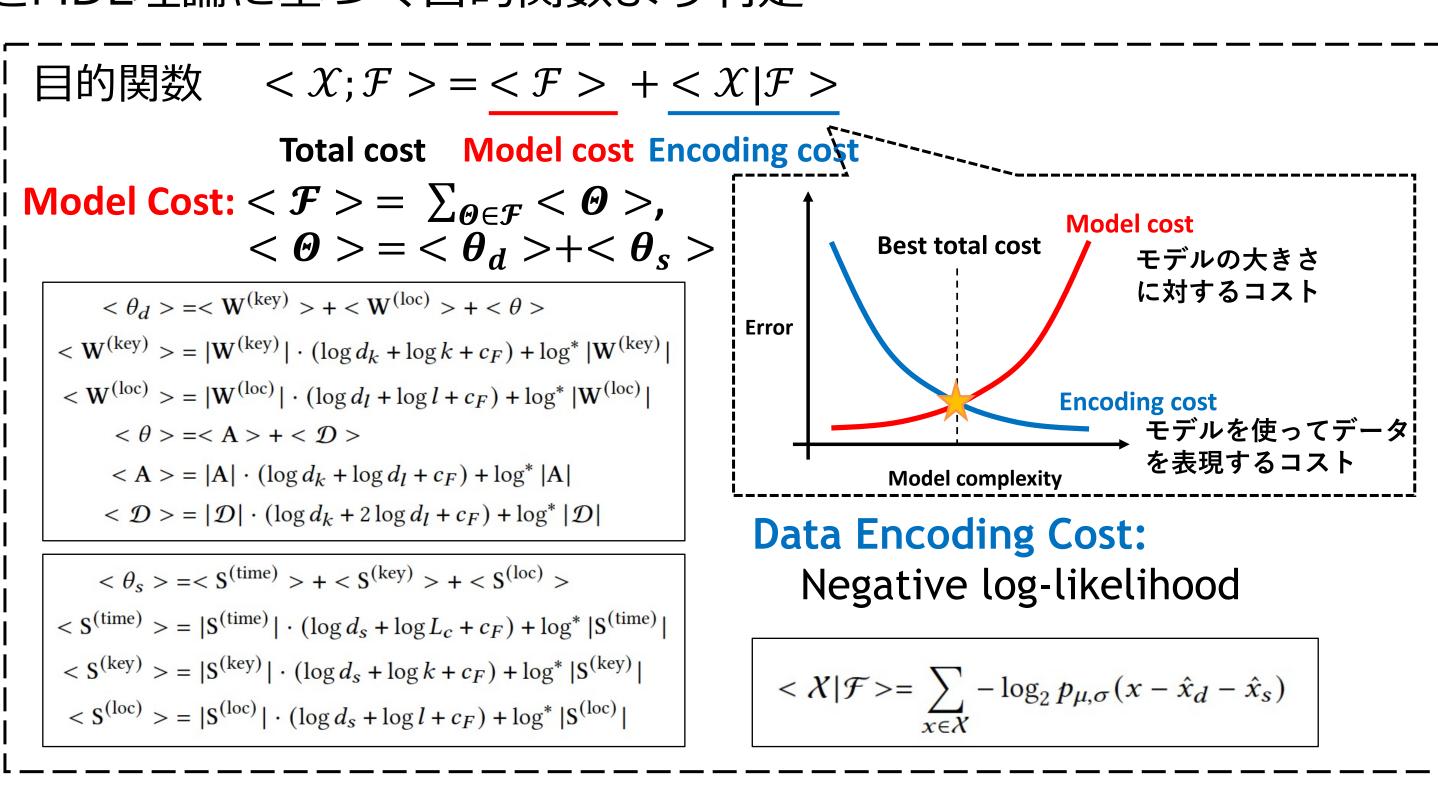
加えて新しいモデルにスイッチするかどうかを判定する

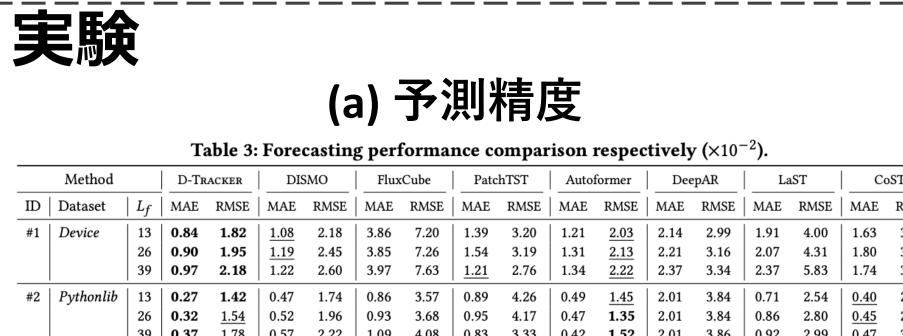
#### 2 ModelUpdate

新しいデータが到着した時、

### 新しいモデルにスイッチする or 現在のモデルを使う

をMDL理論に基づく目的関数より判定

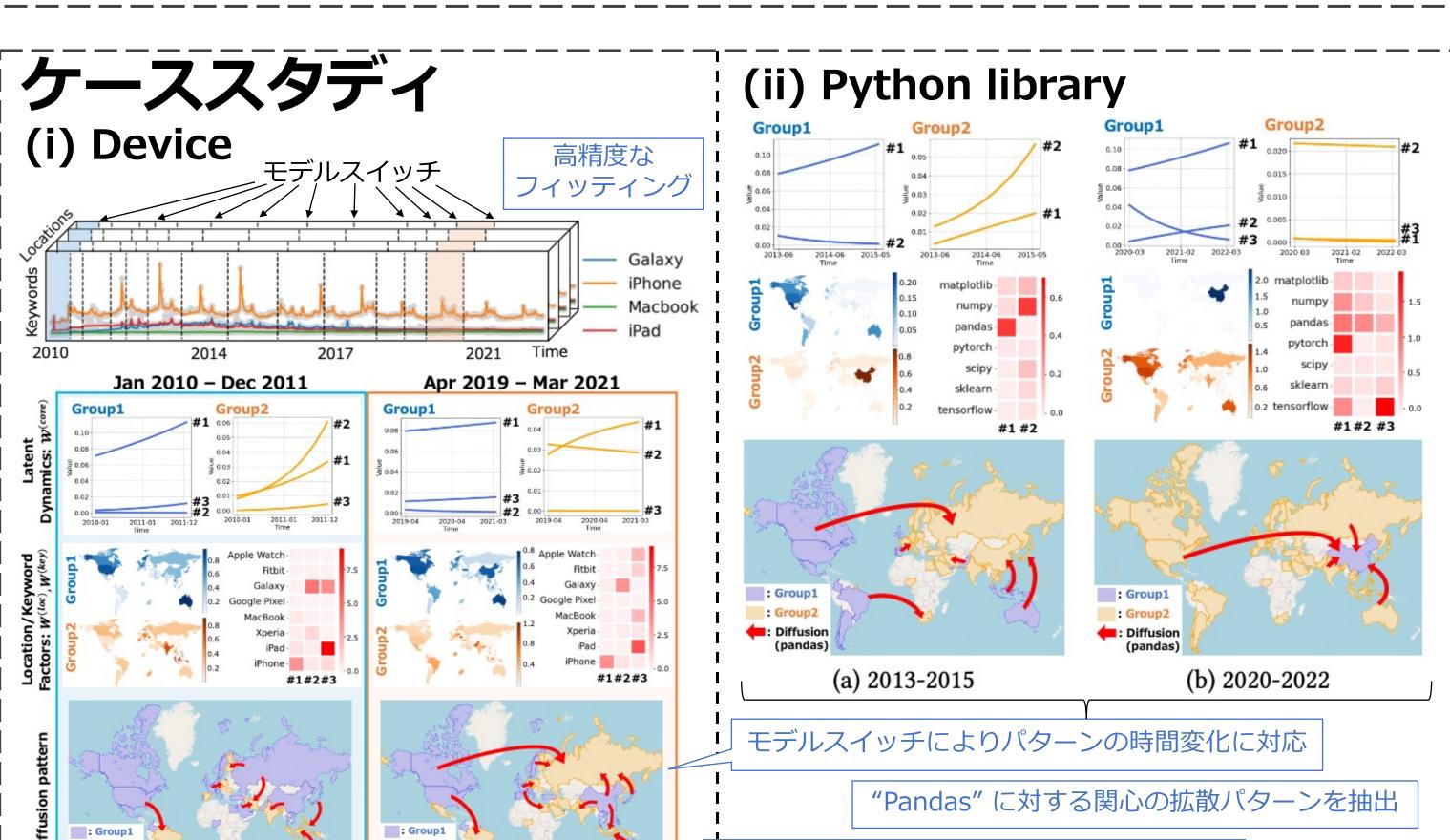




# 0.90 1.95 1.19 2.45 3.85 7.26 1.54 3.19 1.31 2.13 2.21 3.16 2.07 4.31 1.80 3.79 0.97 2.18 1.22 2.60 3.97 7.63 1.21 2.76 1.34 2.22 2.37 3.34 2.37 5.83 1.74 3.77 26 0.59 1.83 0.66 1.91 2.83 6.95 0.84 1.82 0.74 1.63 1.88 2.42 2.53 11.42 2.36 11.17 39 0.63 2.02 0.78 2.22 2.79 6.84 1.69 2.57 1.13 2.07 1.98 2.61 1.55 5.50 3.27 15.18 | 26 | **0.35** | <u>1.14</u> | 1.12 | 2.68 | 1.42 | 3.33 | 0.50 | 1.97 | <u>0.41</u> | **0.93** | 2.03 | 3.65 | 0.80 | 2.13 | 0.47 | 1.73 | 39 | **0.40** | <u>1.32</u> | 1.36 | 3.19 | 1.51 | 3.44 | 0.51 | 2.50 | 0.54 | **1.08** | 2.01 | 3.55 | 0.81 | 2.13 | <u>0.49</u> | 1.79 7 0.47 1.40 1.12 2.87 1.95 2.75 1.60 5.55 1.10 2.39 4.60 5.41 2.39 7.91 1.23 7.07 14 0.70 2.42 1.33 3.94 1.97 2.85 2.04 7.64 1.18 2.97 2.30 3.88 2.10 6.78 1.45 8.50 21 0.98 3.65 1.58 5.83 1.98 3.08 2.24 17.30 1.25 3.25 2.61 4.40 1.74 5.71 1.72 9.14

# (b) スケーラビリティ -A- PatchTST -E- Autoformer -⊕ DeepAR -⊕ LaST -⊕ CoST \*--\*--\*--\*--Y 2020 D-Trackerの計算時間は

データストリームの長さ に依存しない



'iPhone" に対する関心の拡散パターンを抽出